

—2018 年度算数入試問題解説(第 1 回)—

解答の形式は、すべての問題が□にあてはまる数字や記号を答える穴埋め式です。ちょっとした計算ミスや、単位の見間違いは致命的ですので、落ちついてあわてずに問題を解くことが大切です。

一見難しそうな面積や体積を求める問題も、基本的な知識さえ身につけていれば確実に解けますし、文章問題もその文章の意味がきちんと理解できれば、それほど苦もなく正解にたどりつけます。

では各問題を見ていきましょう。

- [1] いずれも基本的な計算問題です。正確に解けるようにしましょう。
(あ)～(う)は計算の基本で、正答率も高いですから落とさないようにしましょう。
(う)～(か)は分数・小数の計算ですが、特に割り算は小数点の打ち間違いが目立ちますので気を付けましょう。分数や小数の計算方法、計算の順序を確認しましょう。
(け)～(さ)は単位換算と計算です。重さ、時間、長さ、容量などの単位換算ができるようにしておきましょう。
- [2] いずれも中レベルの1～2行程度の問題です。
一度は目にしたことのある問題でしょう。書き出したり、文章の内容を正確に読み取ったりすることが出来るようにして、正しい答えを導き出せるようにしてください。文章をよく読み、単位や質問の内容に気をつけましょう。
- [3] 標準的な約束手算の問題です。あわてずにルールを確認しながら解いていけば、正しい答えを導くことができるでしょう。(1)～(3)は正答率も良かった問題ですから、このレベルは確実に取れるようにしておきましょう。
- [4] 問題文をしっかりと読み、内容を理解することが大事です。文章を読み間違えたために起こるミスも目立ちました。(2)(3)は正答率が低かった問題ですが、(1)は落とすたくない問題です。
- [5] 図形の問題です。
角度の問題になっています。(1)の流れをつかむと、(2)が解きやすくなります。(1)は確実に解けるようにしておくことが大事です。(2)は応用となりますが、(1)の流れを利用しています。

毎年のように出題されている問題がたくさんあります。割合を利用する問題、数え上げの問題、距離・時間・速さの問題などです。小学校で学ぶ基本を理解し解けるかが問われますので、基本に忠実に練習していきましょう。公式をただ暗記してもなかなか正解にたどり着けないこともあります。公式ばかりに頼らず、順番に書き出してみたり、実際に数えてみたりしながら答を出す練習もしてください。また、計算を正確に解く練習をたくさんしてください。正答率の高い問題、特に計算問題ではケアレスミスしないように日ごろから練習をしましょう。基本問題の答えを正確に出すことはとても大事なことです。図形の問題では、実際に自分で図を書いてみたり、何が起きているのかよく考えてみたりすることが必要です。

—2018年度 国語入試問題 解説(第1回)—

◆語句について

実生活でよく目にすることばや新聞・書籍の中に登場することばも出題しています。例年、読みは高い正答率を保っています。一方、書き取りは文意を読み取ることも要求されます。正答率が低かったもので、①は「群」と「郡」で迷うでしょう。また、⑧は「支持」か「指示」を読み取るが必要となります。

◆物語的文章について

親しみのある文体で書かれているので、イメージがしやすかったと思います。文章は2つに分かれます。前半は白壁館長とおばあちゃんとで立禅をしている場面です。後半は電車での場面となります。

前半で、立禅をコツコツすることができるかもしれない、と思った拍子におばあちゃんから立禅を勧められます。そこで傍線部①「心の中を読む力も持っている」となります。30字以内での記述ですから、前後関係を把握すればできます。記述は自分のことばで答えるのではなく、本文のことばをつなぎ合わせれば正解が得られます。また、部分点もあります。書くことを億劫に思わないでください。

問四は、本文から得られるおばあちゃんの性格や特徴を使って、おばあちゃんが言うであろうことばを選ぶ問題です。おばあちゃんは「いかにも困っているふりをして手伝って欲しいと頼み」と本文にありますので、「絵が苦手な代わりに描いてくれると助かる」とある「エ」が正解になります。他の選択肢は困っている様子がありません。

これまで見てきたように、おばあちゃんは人の心を理解し、自分が困っている「優しいうそ」をつくることで、その人の持つ力を引き出します。ただ、そのうそは人を不幸にするものではありません。電車の中でも座席を専門学校生に譲ってもらいつつ、話をすることで彼を元気づけます。また、周りも人も良い光景を見られたと幸せな気分になっています。この問題文だけでなく作品全体を読むと、おばあちゃんが人を惹きつけて、大きな問題でさえも解決してしまう様子が描かれます。せっかくこの作品と出会ったのですから、ぜひとも作品全部を読んでほしいです。

◆説明的文章について

本文は「知る」とは何かを説明することから始まります。そして、筆者の子どもの頃の戦争の話となります。その中で「おもんばかり」ことを忘れた現在を指摘し、「知る」と関連させて問題文が終わります。

「知る」とは、「自分とつながりのある存在として、その人たちをもう無視して過ごすことはできない」ということになること、と本文前半にあります。また、「想像力や思いやる力を同時にはたらかせながら行うもの」、と本文後半にあります。「おもんばかり」は、小学校生活でほとんど使われないでしょう。しかしながら、本文に「想像力」や「感じとる」ということばがあります。

問四では、解答用紙に「～おもんばかりから。」とあるので、ことばを交わすことなく何を想像したのかを考えれば、正答にたどり着けます。また、問五は「知る」と「おもんばかり」を正確に把握していれば解ける問題です。傍線部付近だけで考えるのではなく、本文全体で筆者は何を言おうとしているのかを読み取るよう練習してください。

問六は、**シエラレオネ**を「知る」と「おもんばかり」ことをした上で、筆者の言うように「自分が解決に乗り出すべき問題として自覚」してほしいと思って出題しました。正解は複数あります。まずは自分のこととして「知る」ことが一歩ですので、内戦や感染症の原因を「調べる」ことから始めるのが現実的でしょう。ボランティアに行く、という心強いものもありました。「シエラレオネの人のために祈る」という解答があったのは、心揺さぶられるものがありました。 ※シエラレオネ→表記ミス訂正済

—2018 年度理科入試問題解説(第 1 回)—

1. 生物分野からの出題です。

植物の開花・結実についての出題です。今回は、イネの花と種子のつくりについて出題しましたが、入試対策としてそこまで充分には学習していなかったようで、あまり高い得点とはなっていませんでした。植物には日の長さが短くなってくると開花するものがあります。問1の(4)は、夏至の日の長さが分かっていないと説明ができない問題でした。

全体的には、細かな知識問題対策と地学分野など他分野の基礎知識を利用できるように学習して欲しいと思います。

2. 地学分野からの出題です。

気象についての問題です。全体として、気象についての基本的な知識を問うものが多かったと思います。天気記号は、日常的にテレビや新聞などの天気図に出ているかと思いますが、特に、「晴れ」の記号の得点率が低かったことから、天気記号までの対策があまりできていなかったようでした。どの単元もむらなく細かいところまで学習して欲しいと思います。

3. 化学分野からの出題です。

水溶液と気体についての問題です。会話文を読んで、それをもとに問いに答えていく形式です。ほとんどが知識を問うものですが、問8は読解力も必要とされる問題でした。全体的に高い正答率でしたので、いかに基本問題を間違えないかが重要でした。気体の問題のうち、選択肢が多い問い(問4)や、発生する気体ではなく逆に気体の作り方を問う形式(問7)になると、正答率が大きく下がりました。内容自体は難しいものではなかったのですが、じっくり冷静に考える心構えも大切です。

4. 物理分野からの出題です。

電池と豆電球に関する問題です。全体的に典型的な問題を出題しました。豆電球や電池のつなぎ方、豆電球のつなぎ方と明るさの関係などをしっかりと理解しましょう。電流計についての問題の正答率が低くなりました。実験や体験することも大事にしてください。A～Dで答えるべきところをア～エで答えてしまう間違いが見られました。問題文は落ち着いてよく読みましょう。

—2018 年度社会入試問題解説(第 1 回)—

例年通り、試験時間 40 分、100 点満点の出題でした。分野別には、地理的分野、歴史的分野、政治的分野がそれぞれ 2 : 2 : 1 の割合で、小問はすべて 2 点配点、計 50 問の出題でした。

■第 1 問<地理的分野>「関東地方の特徴」というテーマで出題しました。各設問には、地形や気候など自然に関する問題、各県の代表的な産業に関する問題が主でした。また、その県の特徴を表す文章を読んだ上で、その県のかたちを問う問題も出題されました。本校ではよく聞かれる出題パターンです。「この都道府県の特徴はなにか(例えば、気候・地形・代表的な産業とその中心地・代表的な農産物・水産物)」ということに関心をもって、地理学習を行っていきましょう。さらに、日頃から地図帳を見て、そこに掲載されている「都道府県の位置」、「農産物の生産量に関して、都道府県別の順位がわかる円グラフ」、「雨温図」などを見てください。ある都道府県の特徴の書かれている文章を読んだときに、その都道府県の地図や気温のグラフ、農産物生産量のグラフなどが思い出せるトレーニングをしていきましょう。一部の地域だけでなく、各地域の基本的な事項を幅広くおさえていきましょう。

■第 2 問<歴史的分野>「ある女性のつぶやき」というテーマで、一つの時代に限定せず、各時代に活躍した人物、その時代に起きた事件、天皇や将軍などが行った政策の内容などを問いました。本校の歴史的分野の問題は、ここ数年このような形式の出題を行なっています。歴史は時代区分があります。各時代にはそれぞれの特徴があります。本校では中学校以降の歴史学習に必要な基礎事項を、中学入試の学習を通して身につけてほしいという意図をもってこのような出題形式を行なっています。一つ一つの事件における詳しい内容をつかむことも大切ですが、例えば「江戸時代といえばこの人、この事件」というような歴史の見方を習得する取り組みを続けてください。

■第 3 問<政治的分野>「憲法」をテーマとして出題しました。憲法改正の手続き、日本国憲法の特徴、大日本帝国憲法の特徴などについての設問がありました。憲法の精神を国民が守っていくという憲法第 12 条「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。」の出題は正答率が低くなりました。政治的分野は地理的分野・歴史的分野に比べ、後回しになりがちですが、基本的な事項は限定しやすいです。「憲法」「三権分立」「平和主義」「日本の財政」などのテーマは重点的に学習し、「三審制」「累進課税」「オンブズマン制度」「リコール」などよく聞かれる特定の用語は習得しましょう。

毎年秋以降の学校説明会において、一般入試の出題に関するヒントを公表しておりますので、是非ご参加下さい。本校では地理的分野・歴史的分野・政治的分野で、選択肢の用語をそのまま書き写す形式の問題も多く出題しています。この場合、漢字の書き写しを間違えると減点となってしまいますので、正確に用語を書く練習を日々行なってほしいです。